

<基本計画> 市民ができることの見直しについて
(市民ワークショップの意見による見直し案)

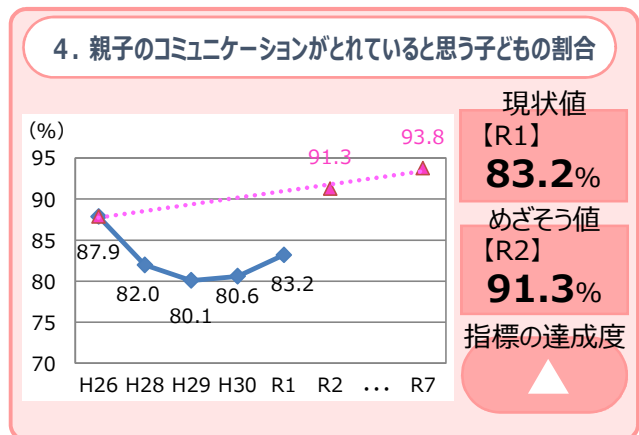
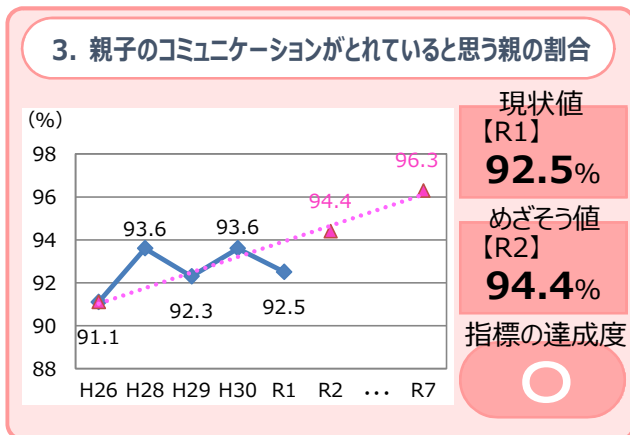
【めざすまちの姿5/教育・歴史文化】
子どもが良いことと悪いことの区別ができる

見直し案	
日ごろから家族で色々なことについて話をし、善悪に対する価値観を共有することができます。	継続
近所の子どもにあいさつをしたり気軽に話しかけ、良いことは褒め、悪いことは注意することができます。	継続
子どもと一緒に、劇や映画を観たり、本を読むなど、物事を客観的にみる力を養ったり、考えたりする機会をつくることができます。	継続
子どもの求めに応じて子どもの活動に積極的にに関わり、家族で会話をする機会を持つことができます。	新規

【参考】

市民ワークショップで出された意見
あいさつと感謝の言葉を大切にする。
スマホの使い方やモラルについて、家庭教育に関する教室で取り上げていく。
デジタル化によって家族が変化しているので、それに対応した何か(ができるとうい)。
子ども同士で集まるスポーツクラブに参加し、その中で善悪を学ぶ機会がある。
核家族化が進んでいるので、親子で話をする時間がない。
親子で話し合ったり、教育する機会(をつくる)。
子どもの活動に親が関わる時間をつくる。

※めざすまちの姿ごとに設定されているまちづくり指標のうち、現状値(R1)の達成度から課題となる指標を抜粋



【めざすまちの姿6/地域・市民生活】

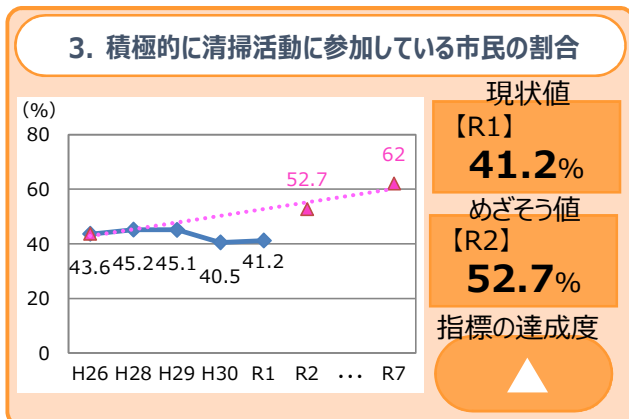
人通りが多い場所でもごみが落ちておらず、まちがきれいである

見直し案	
挨拶を活発にして、ポイ捨てできない雰囲気をつくることができます。	継続
ポイ捨てされているごみを見かけたら拾うことができます。	継続
各家庭や企業が、家や会社の周りの草むしりやごみ拾いを行うことができます。	修正
子どもの頃からごみに対する教育や意識の向上を図り、地域のごみ拾いに参加することができます。	新規

【参考】

市民ワークショップで出された意見
行政の情報を積極的に取りに行く。
子どもや若い人が、地域のごみ拾いに参加するようになると良い。
学校の中が草ぼうぼうで、子どもがきれいにしたいという意識がないのではないかな。
子どもへゴミに対する教育をする。
豊明で働いている人、企業に働きかけをして、きれいにしてもらおう。
働いている人は、なかなか情報がもらえない。
ごみを少なくする、出さないという意識を持つ。
市民が連絡できる場所があり、市民が知っているとうい。
駅の壁に落書きがあっても、すぐに消されるべきである。
行政も新しい媒体で情報発信する。
若い男性が地域の活動に参加しない。巻き込めるイベントができないかな。
情報の共有、つながりが市民と行政であるとよい。
ポイ捨てされているごみを見かけたら拾うことができます。→コロナウイルスの影響などから、現状はできないのではないかな。

※めざすまちの姿ごとに設定されているまちづくり指標のうち、現状値(R1)の達成度から課題となる指標を抜粋



【めざまちの姿 11/健康福祉】

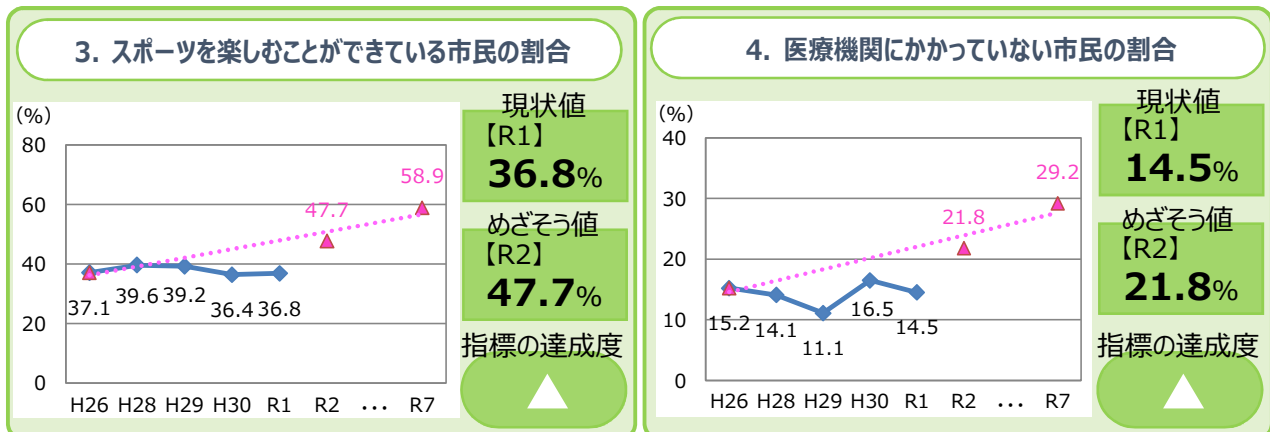
子どもから高齢者まで気軽にスポーツを楽しみ、健康に暮らしている

見直し案	
ご近所や友達同士でスポーツする機会に誘い合うことができます。	継続
地区対抗のスポーツ大会やイベント、地域での運動会などを企画し、運営することができます。	修正
歩いたり、自転車の利用を増やすことができます。	継続
自分の得意なスポーツを教えて、スポーツの輪を広げることができます。	継続
地域に根づいたスポーツを考え、実践することができます。	継続
企業や団体などと協力、連携を図り、スポーツ活動の場や健康増進の機会を増やすことができます。	新規

【参考】

市民ワークショップで出された意見
企業とタイアップして活動の場や機会ができるとうい。
スポーツイベントの企画についてアドバイスや費用の支援があれば、活動が広がる。モデルケースがわかるとよい。
参加したくなるインセンティブによって人を集める仕掛け（があるとよい）。
地区対抗のスポーツイベントがあると盛り上がる。
リーダーに対する支援が必要である。
高齢者にもできるスポーツを考えて一緒にやること（があるとよい）。
栄養指導とスポーツを合わせて健康増進を進める。
地域の運動会のようなイベントを開催できるとよい。
運営する方法を学ぶことができます。他の成功例を学ぶ、参加など。
駅の駐輪場がいっぱいで使えない。
実践できる環境をつくる必要がある。
地域ごとのリーダーが重要になる。
ラジオ体操、町内の運動会などでも、費用的な負担がある。
スポーツイベントのときに、栄養指導できるとよい。
できる場所が見つからない。

※めざまちの姿ごとに設定されているまちづくり指標のうち、現状値(R1)の達成度から課題となる指標を抜粋



【めざすまちの姿 15/健康福祉】

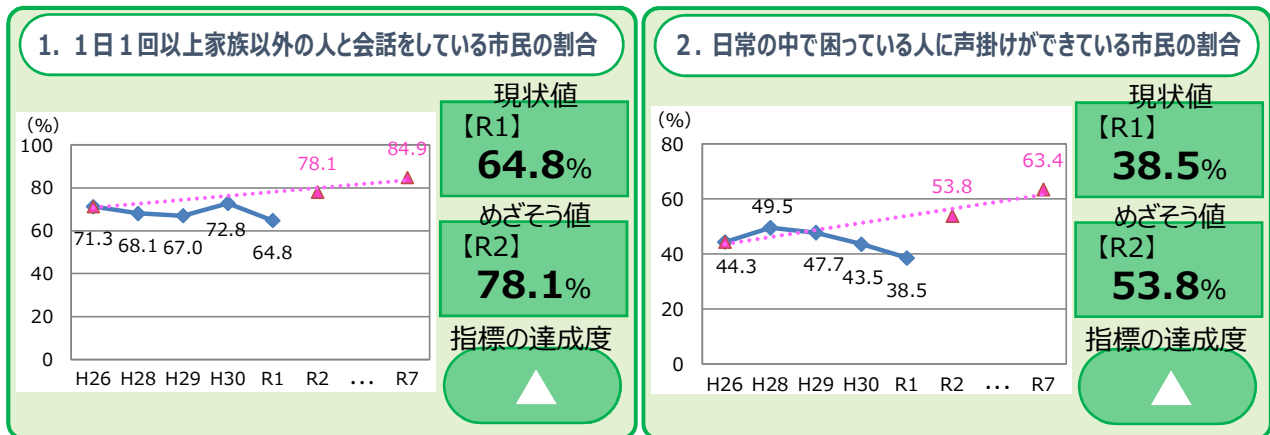
誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている

見直し案	
一人ひとりが、思いやりの気持ちを持って他者に接することができます。	継続
町内のイベントの時などに声をかけたり、誘い合うことができます。	継続
地域の中に 身近に、気軽に集える場所をつくり、地域での活動や情報共有の場にする ことができます。	修正
気の合う仲間同士でいろんなサークルをつくることができます。	継続

【参考】

市民ワークショップで出された意見	
子育てを地域ぐるみで行っていく。	
公園などの 身近に、気軽に集える場所（をつくる。）	
地域でいろいろな活動や情報共有の場に参加する。継続していく。	
市と市民が協力、連携をする。	

※めざすまちの姿ごとに設定されているまちづくり指標のうち、現状値(R1)の達成度から課題となる指標を抜粋



【めざまちの姿 19/地域・市民生活】

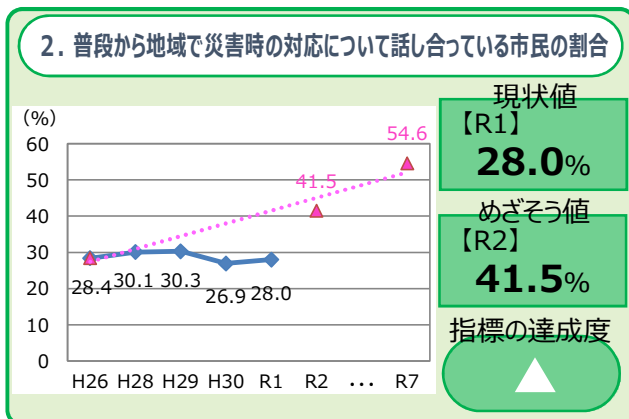
防災を行政任せにせず、普段から家庭と地域の準備と連携が十分できており、災害時には助け合うことができる

見直し案	
普段から家庭で防災について話し合い、防火設備の点検や非常食の備蓄、避難経路の確認を行うことができます。	修正
近所付き合いをよくし、地域でお互いを理解し、つながりを強め、協力し合うことができます。	修正
非常時にアレルギーや障がいを持っている人に対して理解が必要なことを地域で認識し、対策を立てることができます。	継続
ハザードマップを活用して、防災に関する情報を市民同士で共有することができます。	継続

【参考】

市民ワークショップで出された意見
家庭、家族での防災についての話し合いの場を持つ。
町内会での集まりや活動に積極的に参加しやすい雰囲気をつくり、つながりをつくる。
高齢者と若者との交流を持ち、つながりを深める。
地域での近所付き合いを強め、助け合いができるようにする。

※めざまちの姿ごとに設定されているまちづくり指標のうち、現状値(R1)の達成度から課題となる指標を抜粋



【めざまちの姿 20/地域・市民生活】

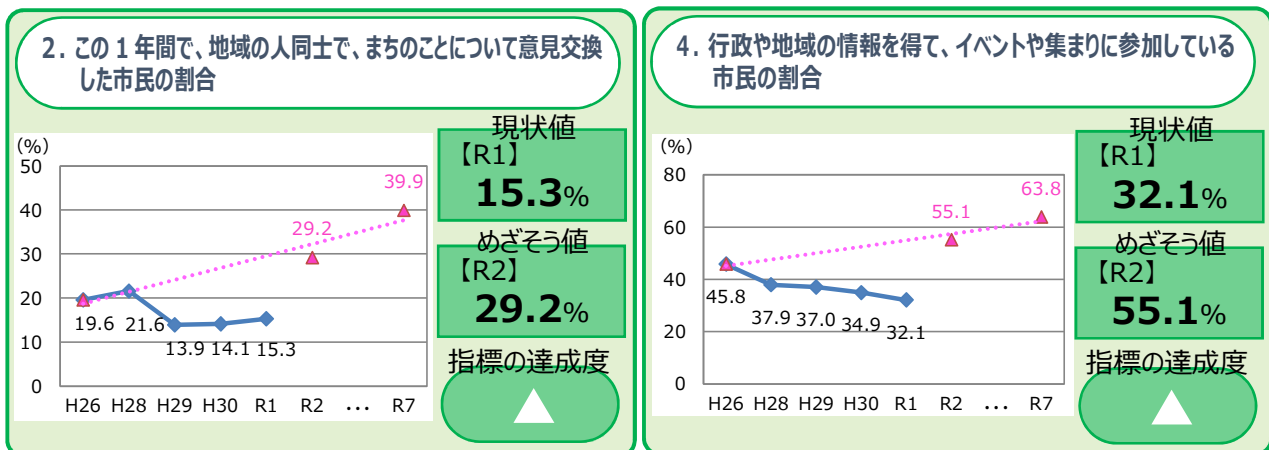
行政や地域が発信する情報を市民が積極的に共有し、活用している

見直し案	
広報を積極的に読み、良いと思った情報を周りの人に伝えることができます。	継続
町内の掲示板のデザインを工夫するなど、誰もが目を向ける工夫をすることができます。	継続
町内会や商店などが、人が気軽に集まることができる場を設け、情報を共有し、活用することができます。	継続
多くの方が行政や地域の情報に積極的に関心を持ち、意見交換の場へ参加することができます。	新規

【参考】

市民ワークショップで出された意見
一人暮らしの高齢者などへの情報発信や伝達など工夫する。
異世代の交流、連携を図って情報共有、発信していく。機会、きっかけづくり。
興味を持っていない人にも呼びかけ、巻き込んでいく。
関心のある人や意識の高い人を先頭にいろいろな人を巻き込んでいく。
町内会に入っていない人への情報発信を工夫する。

※めざまちの姿ごとに設定されているまちづくり指標のうち、現状値(R1)の達成度から課題となる指標を抜粋



【めざまちの姿 21/教育・歴史文化】

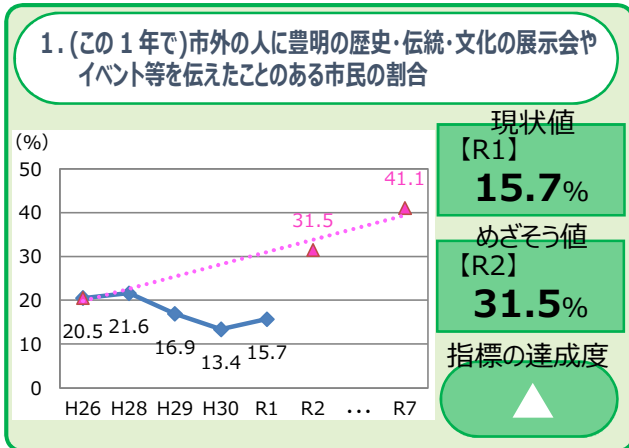
市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している

見直し案	
豊明の伝統行事を継承していくことができます。	継続
豊明の歴史・伝統・文化に関するイベントなどを企画・運営し、発信することができます。	継続
豊明の歴史・伝統・文化に関するイベントに子どもと一緒に積極的に参加することができます。	継続
日頃から、若者や子どもに豊明の歴史・伝統・文化を気軽に伝える機会や場をつくることができます。	新規

【参考】

市民ワークショップで出された意見
色々な人が気軽に集える場所を確保する。空き家の活用など。
長く住む高齢者が、若者や子どもに伝える機会や場所をつくる。老人クラブの活用、連携。
自分たちで、自慢のできる文化や歴史を紹介する。
もっと身近に、気軽に歴史や文化を伝えたり、聞いたりできる機会をつくる。

※めざまちの姿ごとに設定されているまちづくり指標のうち、現状値(R1)の達成度から課題となる指標を抜粋



【めざまちの姿 35/地域・市民生活】

若い人が豊明市を自分たちのまちとして愛着をもち、新しい感性を活かし、まちづくりが進められている

見直し案	
豊明に愛着をもってもらうために、学校や地域の教室などで、若い人が豊明の歴史や文化を学ぶ機会を増やすことができます。	継続
まちづくりの意思決定の場に若い人が積極的に参加し、意見することができます。	継続
若い人や子どもが参加しやすい活動やイベントを活発に行うことができます。	新規

【参考】

市民ワークショップで出された意見
若者に町内会に参加してもらうために、子ども向けのイベントを活発にする(餅つき大会など)。
花き市場を利用したイベントなどPRになる取組を行う(アドバルーン的な目立つこと)。
町内会の行事に、大学と協働して国際交流などを進めるとよい。
豊明市に住みたい人がいても、家を建てる場所がないのではないか。
外から若者(特に若い夫婦)が移り住んでもらうこと。女性の働きやすい環境があるなど。企業誘致も重要である。
同窓会のような集まりがあるとよい。
お祭りに若い人などに参加してもらえるとよい。
若者が豊明を好きでなくなっている原因を把握して、それに対応すること(が重要である)。

※めざまちの姿ごとに設定されているまちづくり指標のうち、現状値(R1)の達成度から課題となる指標を抜粋

